

PROFILE

わかさ健康館

柔道整復師・鍼灸師

大島寛子（おおしま ひろこ）先生

日々、治せる治療家を目指し、患者様を元気付けられる存在であることがモットーです。強みである、健康・スポーツ・美容分野をしっかりとサポートします。

兵庫県出身

PROFILE

わかさ健康館

柔道整復師

牧野里香（まきの りか）先生

スポーツ関係だけでなく、ケガからの早期回復やケガをしつづけたりなどのサポートをさせていただき、患者様と一緒に頑張れたらと思っています。体の悩みを少しでも解消していただけるよう、整骨院だからこそおひとりおひとりに密着した存在になれたらと考えています。

京都府出身

『怪我が治った』という感激の気持ちを、たくさんの患者様と共有したい。

輝く女性治療家たち



JR京都駅から地下鉄で二駅の四条駅。都市銀行の支店が多く立ち並び、京都の金融、ビジネスの中心地として賑わうこのエリア。12月初旬、初雪の舞う京都四条に「わかさ健康館」を訪ねた。サプリメント「ブルーベリーアイ」でおなじみの株式会社わかさ生活が手

掛ける整骨院だ。真向かいにある大丸京都店のフロアからも見ることができる院のサインは、爽やかなグリーンを基調にデザインされ、院内の優しく明るい雰囲気を醸し出している。この「わかさ健康館」で活躍されている女性柔道整復師、大島寛子先生、牧野里香先生のお二人にお話を伺った。

この職場で初めて出会ったというお二人の共通点は、意外にも子供の頃からやっていたというバレーボール。たまたま同じスポーツをしていたというのだが、このバレーボールがきっかけでそれぞれが描いた将来は、治療家という道だった。

「バレーボールで、怪我したときに初めて鍼の治療を受けたんです。それが自分でも驚くくらい劇的に復活。『これが治るんや!』というのを実感して。それからこの業界に興味を持ち、『どうせ学校行くなら両方とつて治療家として頑張れ』って親にも背中押された形で。」と話すのは、柔道整復師であり鍼灸師でもある治療家デビュー2年目の大島先生。少々緊張気味でスタートしたインタビューも、治療に関する話になると、少しづつ饒舌になってしま

京都のビジネス街に位置するこの院の来患は30～50代が中心。その中でもやはり女性の来院が多いという。女性の鍼灸師がひとり多いようだ。「鍼治療は『刃』が直接肌に触れるじゃないですか、やはりコミュニケーション

ショングが最初に取れていないと患者さんも緊張してしまって、いい治療が出来なくなってしまう。なので、しっかり話をして、信頼関係を築くこと。まずそこで、次に治療。」「気遣いを第一に接し、そして『治った』を実感してもらいたいですね。」と話す。



わかさ健康館

〒604-8142
京都市中京区錦小路通高倉西入ル西魚屋町601
Tel:075-255-3131
Fax:075-255-9501
<http://www.kenkou-kan.jp/>

一方、牧野先生はバレーボールを続ける中で、「トレーナーとして選手のサポートをしていきたい」という気持ちから治療家を目指した。「自分がやりたいと思っていたのが『骨折』や『脱臼』『怪我』に対する治療。これを考えたとき、柔道整復師という資格を選んでました。」と話す。「(患者さんに施術)触れている間も、その手から何かを感じ取つてもらえたらしいなと思っています。」仕事をする上で一番心がけていることは「常に笑顔でいること」。コミュニケーションを大切にし、その中でいかに自分自身が成長していくか。「いろんな患者さまと接することで、勉強させていただきたい」と話す。牧野先生は今年、施術家として7年目を迎える。

『効果を出すこと、心のふれあいを大切に笑顔の絶えない雰囲気を作ること』わかさ健康館の基本理念は若いお二人の先生にしっかりと根付き、女性ならではの優しさと気配りで溢れた治療院だ。